

簡単に「胃の健康状態」を確認することができます!

血液検査で胃がんのリスクを 検査してみませんか?

ピロリ抗体検査とペプシノゲン法を組み合わせることによって「胃の健康状態」を確認することができます。[胃がんリスク層別化検査(ABC分類)]



	A群	B群	C群	D群
ピロリ抗体検査	-	+	+	-
ペプシノゲン法	-	-	+	+
胃がん発生の危険度	低	→		高

ピロリ抗体検査

胃がピロリ菌に感染していないか調べる検査です。ピロリ菌は胃粘膜にダメージを与え、さまざまな病気のひきがねになると考えられています。

ペプシノゲン法

多くの胃がんは胃粘膜の“萎縮”を背景として発生すると考えられており、「ペプシノゲン法」により、“萎縮”が強いかどうかを判定することができます。ペプシノゲン法陽性の人からは陰性の人よりも高い確率で胃がんなどの病気が発見されることがわかっています。

ABC分類判定対象外

この検査に 不適な方

- ピロリ菌除菌歴がある
- 明らかな上部消化管症状がある、もしくは治療中
- 胃酸を抑える薬を服用している
- 胃を切除する治療を受けた
- 腎機能が低下している

A群



おおむね健康的な胃粘膜で、胃の病気になる危険性は低いと考えられます。

逆流性食道炎などピロリ菌に関連しない病気に注意が必要です。未感染の可能性が高いですが、一部にはピロリ菌の感染や感染の既往のある方が含まれます。一度は内視鏡検査などの画像検査を受けることが理想的です。

B群



少し弱った胃粘膜です。胃潰瘍・十二指腸潰瘍などに注意しましょう。胃がんのリスクもあるので、内視鏡検査を受けましょう。ピロリ菌の除菌治療をお勧めします。

C群



萎縮の進んだ弱った胃粘膜と考えられます。胃がんになりやすいタイプと考えられます。定期的な内視鏡検査とピロリ菌の除菌治療をお勧めします。

D群



萎縮の非常に進んだ弱った胃粘膜と考えられます。胃がんなどの病気になるリスクがあります。ピロリ菌感染診断をお勧めします。かならず専門医療機関で内視鏡検査などの診断を受けてご相談ください。

E群(除菌群)



ピロリ菌の除菌治療を受けた方は、除菌判定の結果に関わらず、E群(除菌群)として定期的に内視鏡検査を受けましょう。

除菌により胃がんの発症リスクは低くなりますが、決してゼロになるわけではないので、除菌後も画像検査による経過観察が必要です。

監修/淳風会健康管理センター センター長 井上 和彦